



取扱説明書

ポータブル動噴

GS350MR



この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に本取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要な時にすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

お知らせ

- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。
- 本製品は、製造後に運転テストを行ってから出荷しています。そのため製品中に水が残っている場合がありますが、異常ではありません。

はじめに

- 本製品は健康な 16 歳以上の人が、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水を行う事を目的とした製品です。
- 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。上記に示した以外での作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。
- 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。
- 関係法令(廃棄物処理法、農薬取締法)を遵守してください。


安全に作業するために

■ 使用目的


本製品は健康な 16 歳以上の方が、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水を行う事を目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業へ使用しないでください。

■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

 **危険** … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。

 **警告** … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。

 **注意** … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。


■ その他の表示について


お知らせ … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。


お願い …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。



 製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。



 製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。

 製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

本製品は健康な 16 歳以上の方が、農薬・消毒薬・殺虫剤などの散布、散水を行う事を目的とした製品です。取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

■ 本体に関する注意事項

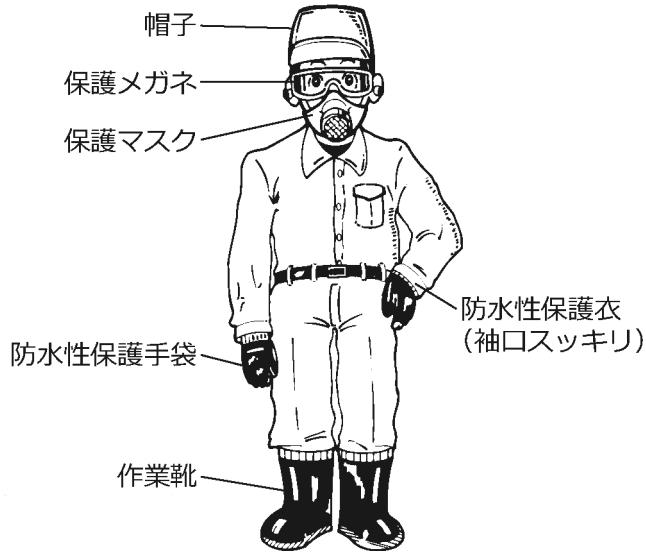
|  危 険 | |
|---|--|
|  | <p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 強酸性の薬品、強アルカリ性の薬品、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコールなどを噴霧しないでください。■ 引火性の高い薬剤は使用しないでください。 |
| | <p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や感電、事故に至ります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 電源は 100V です。それ以外では使用しないでください。■ アースは D 種接地工事の施してあるところに接続 (接地) してください。接地工事は、電気工事店に依頼してください。■ 本製品は防水構造ではありません。絶対に水で濡らさないでください。■ 本製品を火の中に投入したり、加熱したりしないでください。■ 濡れた手で電源プラグ、電源コード、モータに触れないでください。 |

|  警 告 | |
|---|---|
|  | <p>使用目的以外の使用禁止</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品は、農薬・消毒薬・殺虫剤の散布、散水を目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。 目的以外に使用すると、安全性を損なうおそれがあります。また、本製品が破損するおそれもあります。 |
| | <p>改造禁止</p> <p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品の改造は行わないでください。■ 本製品は装置に組み込まないでください。 |
| | <p>部品取り禁止</p> <ul style="list-style-type: none">■ 本製品から組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。 他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。 |
| | <p>使用者に関する注意事項</p> <ul style="list-style-type: none">■ 体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。 正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。■ 16 歳未満の人は作業しないでください。 正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。■ 生理中や産後 1 年を経過していない女性、負傷中などの人は作業しないでください。 薬剤による影響を受け、薬害に至るおそれがあります。■ 体内にてペースメーカーを使用している方は、本製品を使用しないでください。 ペースメーカーが誤動作を起こすおそれがあります |
| | <p>使用環境に関する注意事項</p> <ul style="list-style-type: none">■ 降雨時や落雷のおそれがあるとき、夜間など見通しが悪いときは作業しないでください。 感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。■ 足元が滑りやすい場所、急傾斜地では作業しないでください。 転倒して事故やけがに至るおそれがあります。 |

警告

作業着、保護具について

正しい服装の一例



- 身体を露出しないように、防水性保護衣、帽子、保護メガネ、保護マスク、防水性保護手袋、作業靴などの保護具を必ず装着してください。
保護具が不適切な場合、薬剤が身体に付着し薬害をおこしたり、高圧水や飛散物でけがに至るおそれがあります。

本製品を他人に貸すとき

- 本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。
そのまま放置すると、失明や重傷に至ることがあります。
- 作業中に機械の不調や異常に気がついた場合は直ちに作業を中止し、電源スイッチを OFF にして電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
思わぬ事故やけがに至るおそれがあります。
※点検・修理は販売店にお願いしてください。
- 本製品は子供の手の届かないところに保管してください。
おもちゃと間違え大人の真似をして触ると、事故やけがに至るおそれがあります。


注意

始業点検の重要性

- 作業の前に始業点検を行ってください。
作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は13ページの「3. 始業点検(作業前点検)」を参照してください。


■ポンプに関する注意事項

注意



| | |
|---|--|
|  | <p>ポンプの取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none">■ ポンプから吐き出される水は高圧のため、人や物に向けないでください。 高圧水がかかるとけがに至るおそれがあります。■ タンクに水が無い状態で、30秒以上の運転はしないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。 |
|---|--|

■モータに関する注意事項

危険

| | |
|---|--|
|  | <p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や感電、事故に至ります。 また、本製品が故障に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 安定した電源供給が難しいため、発電機での使用はおやめください。■ 電源コードが損傷している場合はそのまま使用しないでください。 |
| | <ul style="list-style-type: none">■ モータの開口部に、指や物を入れないでください。 感電、火災、けがに至ります。■ モータ周囲の環境温度が40℃以上の場所や、直射日光下で使用しないでください。 火災や事故に至ります。また、モータが焼損するおそれがあります。 |

注意

| | |
|---|--|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 配線の際、電圧降下は2%以内に収めてください。 配線距離が長すぎると電圧降下が大きくなり、モータが始動できなくなります。 |
|  | <p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないとコードの断線、短絡(ショート)の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 電源コードをつかんで製品を移動したり、コードを引っ張ってコンセントから引き抜いたりしないでください。■ コードに刃物類や高熱のもの等が触れたり、重量物を落下させたりしないでください。 |

警告ラベルの取り扱い

⚠ 注意

下記の項目を守ってください。

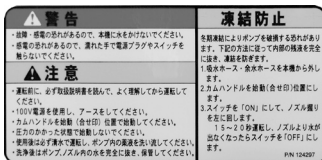
本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。



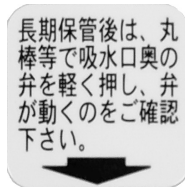
- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。
※ 新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

※ 本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。

下記ラベルの表示内容を守って作業してください。また製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、裏表紙にメモしてください。



①警告ラベル
(部品番号 :124297)



②固着対策ラベル
(部品番号 :125292)



①警告ラベル



②固着対策ラベル



製造番号ラベル

目次

| | |
|-----------------------------|-----------|
| ▲安全に作業するために | 1 |
| 警告ラベルの取り扱い | 5 |
| 1. 梱包品と各部のなまえ | 7 |
| (1) 梱包品の確認 | 7 |
| (2) 各部のなまえ | 7 |
| (3) 各部の働き | 8 |
| 2. 運転前の準備 | 9 |
| (1) 作業者の服装と保護具の装着 | 10 |
| (2) 作業現場の整備 | 10 |
| (3) 作業計画 | 10 |
| (4) 移動、設置 | 10 |
| (5) 吸水弁固着防止キャップの取り外し | 11 |
| (6) 吸水ホースの接続 | 11 |
| (7) 中間ホースの接続 | 11 |
| (8) 余水ホースの接続 | 12 |
| (9) ノズルの接続 | 12 |
| 3. 始業点検(作業前点検) | 13 |
| 4. 運転の仕方 | 14 |
| (1) 始動の前に | 14 |
| (2) 給水 | 16 |
| (3) 始動 | 17 |
| (4) 停止 | 18 |
| (5) 緊急停止 | 18 |
| 5. 作業の準備 | 19 |
| (1) 噴霧確認 | 19 |
| (2) 薬剤の準備 | 19 |
| 6. 散布作業 | 21 |
| (1) 散布作業 | 21 |
| (2) 噴霧作業後 | 22 |
| 7. 点検・整備 | 24 |
| (1) 定期点検 | 24 |
| (2) 整備 | 25 |
| 8. 長期保管 | 26 |
| 9. 故障と対策 | 27 |
| (1) 吸水しないとき | 27 |
| (2) 圧力が上がらないとき | 27 |
| (3) その他の異常のとき | 28 |
| 10. 転売・譲渡・廃棄 | 28 |
| 11. 主要諸元 | 28 |

1. 梱包品と各部のなまえ

(1) 梱包品の確認

開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。



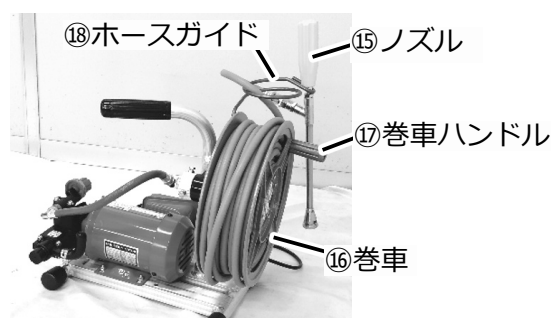
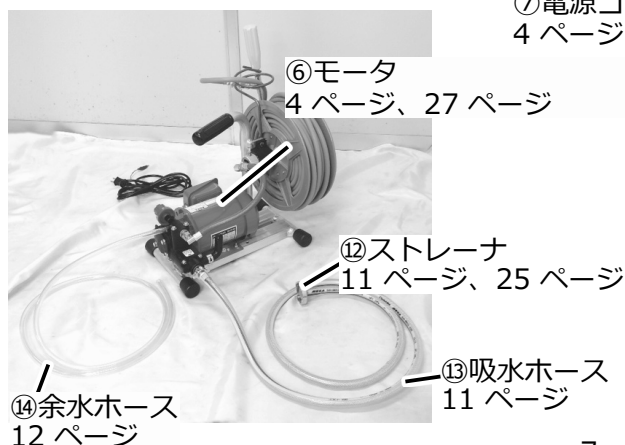
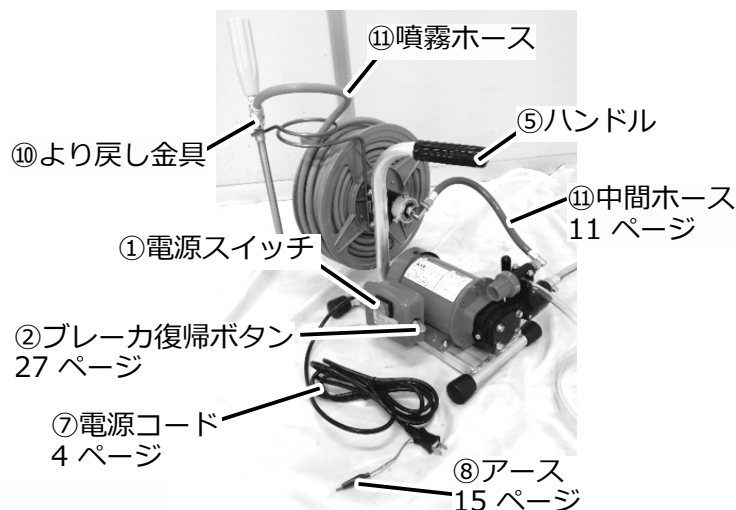
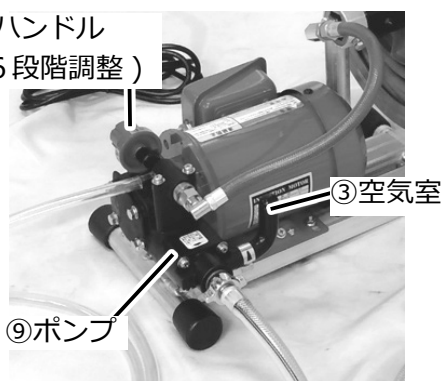
■ 付属品リスト

| 部品番号 | 名称 | 備考 | 数量 |
|--------|--------|----------------|----|
| 124304 | 吸水ホース | 10 × 16 × 1800 | 1 |
| 549936 | 余水ホース | 9 × 12 × 1800 | 1 |
| 835602 | ノズル | | 1 |
| 835636 | 取扱説明書 | 本製品 | 1 |
| - | 保証書 | | 1 |
| 029548 | ストレーナ | | 1 |
| 814042 | より戻し金具 | | 1 |

(2) 各部のなまえ

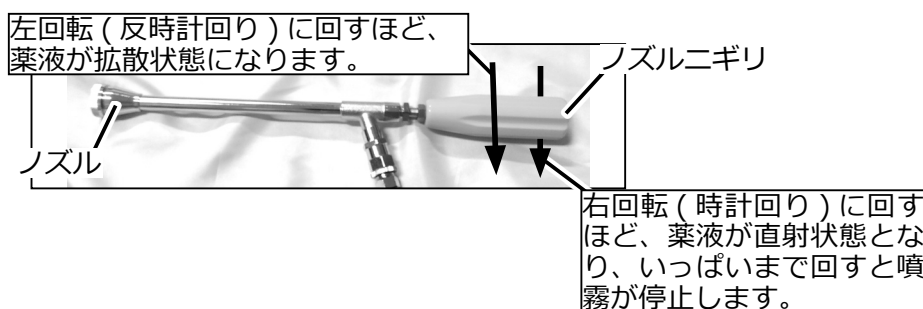
各部の詳細については 8 ページの「(3) 各部の働き」及び以下記載のページ数を参照してください。

④カムハンドル
(圧力 6 段階調整)



(3) 各部の働き

- ① 電源スイッチ
モータを始動・停止します。
スイッチ表示の「-」が始動、「○」が停止です。
- ② ブレーカ復帰ボタン
ブレーカが作動した際、ブレーカ作動状態を解除するボタンです。
- ③ 空気室
ポンプの吸水時の脈動(水の振動)を防ぎます。
- ④ カムハンドル
噴霧圧力調整(6段階)ができます。
- ⑤ ハンドル
本製品を移動する際は、ハンドルを持って持ち運びます。
- ⑥ モータ
本製品を稼働させる動力源です。
過電流が発生した際、モータを保護するブレーカが内蔵されています。ブレーカが作動した場合は
②ブレーカ復帰ボタンを押してブレーカ作動状態を解除してください。
また、温度上昇からモータを保護するサーマルプロテクタが内蔵されています。サーマルプロテクタが作動した場合は、電源を OFF にし、モータを十分冷やしてから、再度始動してください。
- ⑦ 電源コード
本製品の電源コードです。電源は 100V を使用してください。
- ⑧ アース
アース付きコンセントまたはコンセントのアース用ネジを使って必ず接地(アース)してください。
- ⑨ ポンプ
吸水ホースから水を吸い込み、加圧して噴霧ホースへ送ります。
- ⑩ より戻し金具
ホースのより、ねじれを防止する金具です。
- ⑪ 噴霧ホース、中間ホース
ポンプで加圧した薬液をノズルへ送る為のホースです。
- ⑫ ストレーナ
ゴミや異物がポンプ内に入るのを防ぎます。
- ⑬ 吸水ホース
タンクから薬液を吸い込む為のホースです。
- ⑭ 余水ホース
ポンプ内の余分な薬液をタンクに戻す為のホースです。
※圧力と霧の状態により余水量は変化します。
- ⑮ ノズル
ノズルで薬液を拡散し、噴霧します。
ノズルニギリを回すことで噴霧作業(対象物、防除形態)にあわせ、霧の状態を調整することができます。



- ⑯ 巻車
噴霧ホースを巻き取る為の巻車です。
- ⑰ 巻車ハンドル
巻車を操作する為のハンドルです。
- ⑱ ホースガイド
噴霧ホースを引き出す際、ホースガイドを通すことで、ねじれ、絡まりを防止します。
また、ノズルを使用しない時はノズル掛けとして使用できます。

2. 運転前の準備

危険



下記の項目を必ず守ってください。

守らないと感電事故や火災に至ります。また、本製品が破損するおそれもあります。

- 点検・準備・整備はモータを停止し、冷えていることを確認し、電源プラグをコンセントから抜いて、水平で明るい場所で行ってください。
- 配線およびモータ周辺部にゴミの付着、泥やホコリの堆積などがある場合は、取り除いてください。

注意



- 無用な人は作業の現場に近づけないでください。
事故やけがに至るおそれがあります。



- 取扱説明書をよく読んで、本製品の操作に慣れて正しい安全作業を行ってください。
正しい安全作業を行わないと、事故やけがに至るおそれがあります。
- 本製品に使用する部品は必ず、25 ページの「■ 消耗部品リスト」及び 28 ページの「11. 主要諸元」を参照頂き、本製品の規格に対応した純正部品をお買い求めください。
間違った規格の部品を使用すると、事故やけがに至るおそれがあります。また、本製品の故障の原因となります。規格の選定でご不明な点がございましたら、ご購入の販売店にお問い合わせください。

お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具(タオルなど)を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先(医療機関・消防署など)がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- 作業の準備を始める前に、タンク(ポリタンク)などは、お客様が準備をお願いします。その他のご希望、ご要望がありましたら、28 ページの「11. 主要諸元」を参照し、製品仕様に対応した規格の純正部品をご購入の販売店にてご相談、お買い求めください。
- 機体を長時間、野外に放置しないでください。

(1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は3ページの「作業着、保護具について」を参照してください。

警告



- 体を露出しないように、防水性保護衣や保護具などを必ず装着してください。体が露出していると薬剤が体に付着し、薬害に至るおそれがあります。

(2) 作業現場の整備

作業現場に障害物がある場合は事前に取り除いてください。

注意



- 作業現場に障害物がないことを、作業前に十分に確かめてください。障害物の近くで作業をすると、転倒してけがに至るおそれがあります。

お願い

- 必要に応じて対象物の周りをシートで覆い、建物等への飛沫を防止してください。

(3) 作業計画

散布作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順（薬剤の準備・散布作業・散布順路・後片付けなど）、緊急時の対応などを決めた作業計画を立ててください。

(4) 移動、設置

本製品を運搬、設置するときは、下記の注意事項を守ってください。

危険



- 定置配管に接続し、無人運転や連続運転を行わないでください。守らないと火災や事故に至ります。

注意



- 自動車などによる運搬時は機械が転倒しないような処置をしてください。走行時に転落、落下し、事故に至るおそれがあります。

下記の項目を必ず守ってください。

守らないと事故やけが、故障に至るおそれがあります。

- 本製品は、対象物と十分に離し、作業中に水や飛沫がかからない水平で平坦な場所に設置してください。
- 衝撃・落下物のない安全な場所に設置してください。



下記の項目を必ず守ってください。

守らないと事故やけが、故障に至るおそれがあります。

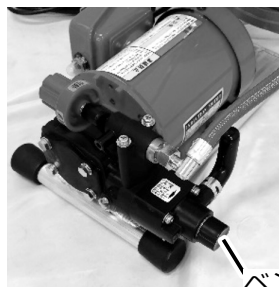
- 本製品は単独運転のみで使用し、他の製品や装置に接続、組み込んで運転しないでください。
- 自動散布装置には接続しないでください。

- 機械を設置した周りには物を置かないでください。

操作の邪魔になり、非常時の対応が素早くできないばかりでなく、誤操作につながるなど、事故やけがに至るおそれがあります。

(5) 吸水弁固着防止キャップの取り外し

吸水ベンの固着防止を防ぐため、ベン固着防止キャップを取付けています。ご使用の際はキャップを取外してからご使用ください。



ベン固着防止キャップ

お願い

- ベン固着防止キャップは作業後にも使用しますので、大切に保管してください。

⚠ 注意



- ホースやノズルの接続を行う際に金具を工具で締め付ける場合は、強く締め過ぎないでください。パッキンやネジ部が破損する恐れがあります。

お願い

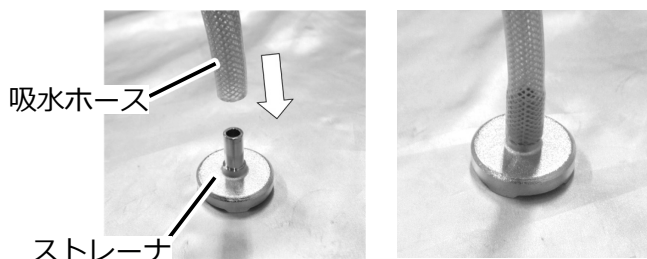
- 締め付けに自信の持てない方は、ご購入の販売店に組み立てを依頼してください。

(6) 吸水ホースの接続

① 吸水ホースの先端にストレーナを奥まで差込んでください。

お知らせ

- ホースが入れにくい場合ホースを温めるか、ストレーナのホース接続部(オス側)に油等の潤滑剤を少量塗布するとホースがストレーナに差込みやすくなります。



吸水ホース

ストレーナ

お願い

- 使用する前にストレーナを清掃してください。

② 吸水ホースのメネジの中のパッキンに異常がないか確認し、メネジを手で吸水口に確実に締め付けてください。



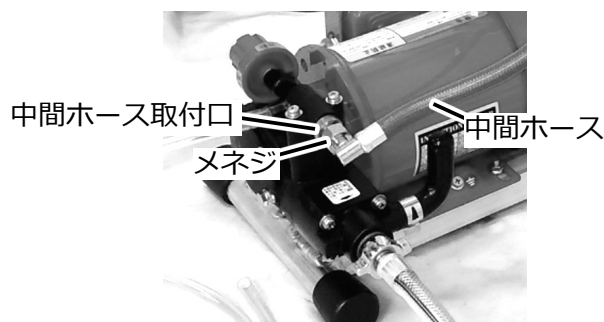
吸水口

メネジ

吸水ホース

(7) 中間ホースの接続

① 中間ホースが外れている場合は、ホースのメネジの中のパッキンに異常がないか確認し、メネジを手で中間ホース取付口に確実に締め付けてください。



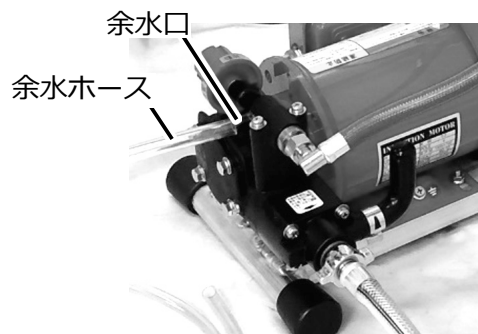
中間ホース取付口

メネジ

中間ホース

(8) 余水ホースの接続

①余水口に、余水ホースを奥まで差込んでください。



⚠ 注意



■ 余水ホースは確実に吸水ホースに束ねてください。

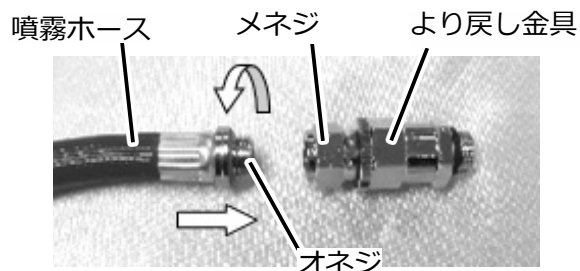
守らないとホースが暴れてタンク外に水を噴出し、事故やけがに至るおそれがあります。

②余水ホースは、タンクから飛び出さないように、バンドなどで吸水ホースに固定し、タンク内に設置してください。

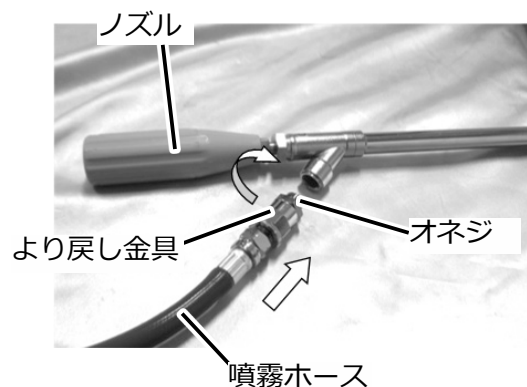


(9) ノズルの接続

①噴霧ホースのオネジの中のパッキンに異常がないか確認し、より戻し金具のメネジに確実に締め付けてください。



②より戻し金具のオネジの中のパッキンに異常がないか確認し、その先にノズルを取り付けてください。



3. 始業点検（作業前点検）

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。

警告



- 始業点検一覧表に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。

注意



- 始業点検は必ずコンセントから電源を抜いて行ってください。
点検中に誤作動させ、事故やけがに至るおそれがあります。

始業点検一覧表


| 点 検 項 目 | 点 検 内 容 | 処 置 | 参 照 先 |
|------------------|------------------------|-------|-----------------------|
| スイッチ | スムーズに作動するか | 修理・交換 | |
| 電源コード | 損傷は無いか | 交換 | |
| 電源プラグ | 変形、破損はないか | 交換 | |
| 中間ホース 噴霧ホース | ホースに汚れ、割れ、折れ、つぶれ、傷はないか | 修理・交換 | 11 ページの「(7) 中間ホースの接続」 |
| | ホースの接続金具のパッキンは正常か | 修理・交換 | 12 ページの「(9) ノズルの接続」 |
| 吸水ホース 吸水ストレーナ | 吸水ホースに折れ、つぶれ、傷はないか | 修理・交換 | 11 ページの「(6) 吸水ホースの接続」 |
| | 吸水ホースの接続金具のパッキンは正常か | 修理・交換 | |
| | 吸水ストレーナにゴミはついていないか | 清掃 | 25 ページの「(4) ストレーナの清掃」 |
| 余水ホース | 余水ホースに折れ、つぶれはないか | 修理・交換 | |
| ノズル | 摩耗・つまりはないか | 清掃・交換 | |
| 全体 | ネジ部のゆるみ | 増し締め | |
| | 水漏れ跡はないか | 修理 | |
| | 各部に汚れはないか | 清掃 | |

4. 運転の仕方



(1) 始動の前に

必ず、点検、修理を行ってから使用してください。

危険

| | |
|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 以下のような場合は感電・ショート・発熱・発火の原因となりますので直ちに使用を中止してください。(電源スイッチを OFF にして電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。)<ul style="list-style-type: none">○ 焦げ臭い。○ 煙が出た。○ 電源コードに触るとモータが止まったり動いたりする。○ 電源スイッチを ON にしてもモータが始動しない。または、電源のブレーカーが落ちる。○ モータから異常音や振動が発生した。○ 一時停止中や運転中にハンチングが発生してモータが始動・停止を繰り返す。■ アース線はガス管、水道間、避雷針などには接続しないでください。 発火、火災、ショートや事故に至ります。 |
| | <ul style="list-style-type: none">■ 本製品は防じん、防爆仕様ではありません。腐食性ガス、可燃性ガス、引火性ガスがある場所、粉じんの多い場所での使用はしないでください。 発火、火災などの原因となります。最悪の場合、爆発に至ります。 |
| | <ul style="list-style-type: none">■ 本製品や電源プラグに水をかけることおよび、雨天時に野外で使用しないでください。 漏電、感電、ショート、故障に至ります。 |
| | <ul style="list-style-type: none">■ 海水の飛沫がかかるような場所や塩分の多い環境下で使用しないでください。 部品の錆・接触不良・絶縁不良・劣化などにより漏電・感電・ショート・発熱・発火・故障に至ります。 |
| | <ul style="list-style-type: none">■ ほこりやゴミが付いたまま使用しないでください。必ず取り除いてから使用してください。 ゴミが付いたまま使用すると発熱・発火に至ります。 ほこりの少ない屋内に保管してください。 |

注意

| | |
|---|--|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。 整備不良のまま作業を続けると、けがや本製品の損傷に至るおそれがあります。 |
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 無線装置の近くでは、運転しないでください。 モータから発生する電波雑音は無線装置に影響を与えるおそれがあります。影響がある場合は使用を中止してください。 |
| | <ul style="list-style-type: none">■ 無理な体勢での作業はしないでください。 思わぬけがに至るおそれがあります。 |

警告

下記の項目を必ず守ってください。

守らないと、火災、感電、事故に至るおそれがあります。

- 本製品が接続される電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電遮断器が設置されているか確認してください。
- 本製品は必ず接地（アース）をおこなってください。
※アースコードの太さ 1.6mm 以上
- 設置する漏電遮断器は定格感度電流 15mA 以下、動作時間 0.1 秒以下、定格電流 20A 以上の特性のものをご使用ください。
- 接地工事や漏電遮断器の取り付けは電気工事店にお願いしてください。

- ①本製品にアースコードを取り付け、接地（アース）をおこなってください。

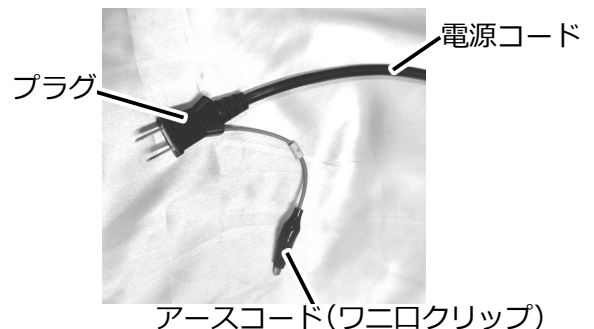


アースコード取付ネジ


危険

- 濡れた手でプラグ、電源コード、コンセントに触らないでください。
守らないと、感電、事故に至ります。
- コンセントに水をかけないでください。
守らないと、ショートや漏電による火災や感電、事故に至ります。
- ガタやゆるみのあるコンセントは使用しないでください。
コンセントの交換は電気工事店にお願いしてください。
守らないと、感電や発熱により火災に至ります。


- ②電源コードのアースコードをコンセントのアース部に接続してください。コンセントにアース部がない場合は市販のアース棒を購入いただき、必ず接地してください。（ガス管、水道管、避雷針などには接続しないでください。）




警告

| | |
|---|--|
|  | <p>下記の項目を必ず守ってください。 守らないと、火災、感電、事故に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 延長コード(コードリール)をご使用の場合、30 m以下の長さで市販リール表示「3.5平方mm規格品」にしてください。■ ご使用になる延長ケーブルの取扱説明書をよく読んでから使用してください。また、必ず接地(アース)をおこなってください。 |
|---|--|

注意

| | |
|---|--|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 延長コードはリールから全て引き出して、伸ばして使用してください。 守らないと、始動不良や本製品の故障に至るおそれがあります。 |
|---|--|

注意


| | |
|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 本製品の電源スイッチが「OFF」になっていることを確認してから、電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。 製品が不意に動き思わぬけがに至るおそれがあります。 |
|---|---|

③本製品の電源スイッチが「OFF」になっていることを確認してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。


(2) 給水

タンクに必要量の水を入れてください。

警告

| | |
|---|--|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 飲料水源および生物を飼育している湖沼からの直接給水は、絶対に行わないでください。 飲料水源を汚染すると法律により、罰せられることがあります。 |
|---|--|

注意

| | |
|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 泥や砂等が混入している水、温度が40℃を超える水は使用しないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。 |
|---|---|

(3) 始動

⚠ 危険



下記の項目を必ず守ってください。

守らないと火災や感電、事故に至ります。

- 電源スイッチを ON にしたまま無人状態で運転（例：電源タイマーの使用等）は絶対におやめください。
- 本製品から離れる場合は、必ず本製品の電源スイッチを OFF にし、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。

⚠ 注意



- 噴霧ホースは全て引き出してから使用してください。

本製品を始動すると、水圧により、噴霧ホースは膨張します。

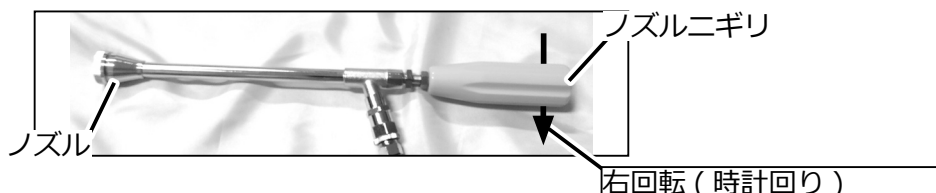
巻車に巻いたまま使用すると、ホースの膨張により巻車が破損するおそれがあります。

- 噴霧ホースの引き出しはゆっくりと行ってください。

守らないと破損や故障に至るおそれがあります。

① 噴霧ホースを巻車から全て引き出してください。

② ノズルのニギリをいっぱいまで右に回し、ノズルを閉じます。



③ カムハンドルを「始動」位置にします。

（逆時計回りに行き止りの位置）



⚠ 警告



- 本製品を始動する前に、周囲を良く見渡し、本製品の近くに人、特に小さな子供やペットがいないことを確認してください。

本製品が急に動き出し、人身事故や傷害事故に至るおそれがあります。

⚠ 注意



- 電源スイッチを入れても 3 秒以内に始動しない場合は、すぐに電源スイッチを「OFF」にしてください。

守らないと故障に至るおそれがあります。27 ページの「9. 故障と対策」を確認し、処置をおこなってから電源スイッチを入れてください。



- モータは運転中、運転直後は高温です。手をふれないでください。

守らないとやけどのおそれがあります。

④電源スイッチを「ON」にします。

⚠ 注意



- タンクの残量に注意し、ノズルから霧が出なくなったら、ポンプを停止させてください。ポンプを 30 秒以上空運転すると、故障に至るおそれがあります。

⑤水が余水ホースから出たら、作業内容に応じてカムハンドルを加圧方向（時計回り）に回して圧力を調節します。

⚠ 注意

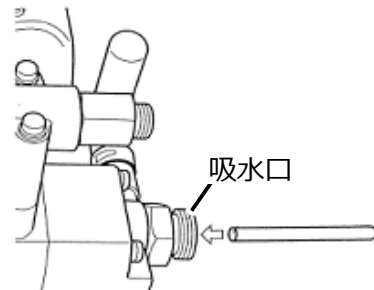


- 弁は強く押しすぎないようにしてください。弁が破損し、故障に至るおそれがあります

■ 吸水・噴霧しないとき

ポンプの吸水ホースを取り外し、吸水ホース取付口より丸棒（ドライバー等）を差し込み、1～2度軽く弁を押し、弁が動くことを確認します。

乾燥時に弁と弁座が固着することがあります。固着していますと吸水しなくなります。固着は軽く押すことで解消します。



(4) 停止

- ①ノズルのニギリをいっぱいまで右に回し、ノズルを閉じます。
- ②カムハンドルを「始動」の位置に戻します。
- ③電源スイッチを「OFF」にします。

(5) 緊急停止

⚠ 注意



- 緊急停止は、緊急時以外は行わないでください。本製品に負担をかけ、寿命を縮めるおそれがあります。

緊急停止の場合は電源スイッチを「OFF」にしてください。電源スイッチの故障で、スイッチを操作してもモーターが停止しないときは、緊急手段として、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、直ちにご購入の販売店に電源スイッチなどの修理を依頼してください。

5. 作業の準備

(1) 噴霧確認




薬剤を調合する前に清水で運転し、異常が無いかを確認してください。

- ① 17 ページの「(3) 始動」を参照し、本製品を始動します。
- ② ノズル先を安全な方向に向けて、ニギリを左方向に回し、噴霧してください。



- ③ ホース接続部から水漏れが無いことを確認してください。
※水漏れがあった場合、運転を中止し、ホースを接続しなおしてください。
- ④ ノズルからポタ落ちなどの異常がないか、確認してください。
- ⑤ 18 ページの「(4) 停止」を参照し、本製品を停止します。

(2) 薬剤の準備

|  警 告 | |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 薬剤は飲み物や食べ物の容器、ペットボトルなどには移し替えないでください。誤って飲み込むと薬害に至るおそれがあります。 |
|  | <p>下記の項目を必ず守ってください。 薬剤を誤って使用すると、薬害に至るおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み、必ず記載されている内容を確認してください。■ 薬剤の知識を十分に持った人が薬剤を取り扱ってください。■ 人や動物がいる空間には散布しないでください。 <p>■ 薬剤は余らないよう、散布計画を立ててから作成してください。 余った薬剤をみだりに廃棄すると、法令違反に至るおそれがあります。</p> <p>■ 薬剤を取り扱う際は、保護具（保護メガネ、保護マスク、防水性保護手袋など）を使用し、十分に注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。また、かぶれなどを引き起こすおそれがあります。</p> <p>■ 薬剤の使用中に体に異常を感じたときは、作業を中止し、直ちに医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、薬害に至るおそれがあります。</p> <p>■ 薬剤は安全な場所に保管し、運搬するときは容器が破損しないように気をつけてください。 薬剤が漏れ出すと薬害に至るおそれがあります。</p> <p>■ 薬剤は、幼児の手の届かないカギのかかる専用の場所に保管してください。 幼児が触ると、薬害に至るおそれがあります。</p> |

⚠ 注意



- 使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで、用法、用量、使用上の注意を守って正しくご使用ください。
濃度や散布量、薬剤の種類を間違えると、作物が薬害に至るおそれがあります。また本製品の消耗を早めます。
- 薬剤、水はゴミが混じらないように、必ずストレーナを通してタンクに入れてください。
異物が入ると故障に至るおそれがあります。

お願い

- 農薬取締法に基づく「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」により、農薬使用者は下記を遵守する義務があります。
 - 1) 農作物や人畜などに害を及ぼさないようにする。
 - 2) 周辺水域への汚染のないようにする。
 - 3) 農薬ラベル記載事項（適用作物、希釈倍率、使用回数、収穫前日数）を遵守する。
 - 4) 住宅地などでの農薬の飛散を防止する。
 - 5) 使用した農薬の情報（年月日、場所、農作物、農薬の種類、単位面積当たりの使用量または希釈倍率）を記録する。




※ 詳細については農林水産省ホームページの「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」を参照してください。
- 有機溶剤を含む薬剤のご使用はお控えください。有機溶剤はパッキン、ホース類を傷めやすい薬剤です。やむを得ずご使用される場合は、使用後すぐに必ず清水で十分に洗浄してください。パッキン、ホース類が損傷します。
- 展着剤を使用する場合は、展着剤のラベルに記載されている内容に従って使用してください。
- フロアブル剤の中には、原液で使用すると、パッキン・シール部を痛め、液漏れにつながる場合があります。ご注意ください。




- ① 薬剤調合用に、バケツなどの容器を準備してください。
- ② 防水性の保護手袋と保護マスクを装着してください。
- ③ 容器で必要なだけ薬剤を調合してください。
 - ※ 薬剤は余らないように作ってください。
水和剤を使用する際は、少量の水でよく溶いてください。
- ④ 薬剤を外部に漏らさないようにタンクに入れ、十分かくはんしてください。
 - ※ ポンプを回しておく、余水でかくはんすることができます。

6. 散布作業

(1) 散布作業

散布作業をするときは、下記の注意事項を守ってください。

|  警告 | |
|---|--|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ ノズルをのぞき込まないでください。 目や顔などに薬剤がかかり、薬害に至るおそれがあります。■ 薬剤を散布した直後の場所へ入らないでください。 散布後の薬剤の蒸気を吸い込み、薬害に至るおそれがあります。■ 作業中の喫煙・飲食はしないでください。 タバコや手についた薬剤が口から入り、薬害に至るおそれがあります。■ 作業に関係のない人は、散布作業の現場に近づけないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。■ 人や動物に噴霧しないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。■ 人や動物にノズルを向けしないでください。 噴射停止であっても、残圧を抜かないと噴霧ホース内には高圧状態で水が封入されている為、不意の操作で高圧水を噴射し、けがや薬害に至るおそれがあります。 |
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。■ 頭痛やめまいを感じたり、気分が悪くなったときは、すぐに作業を中止して医師の診察を受けてください。 薬害により事故や重傷に至るおそれがあります。■ 散布作業は朝夕の涼しい時間帯に行ってください。 気温の高い時間帯は散布後の薬剤の蒸気を吸いこみ、薬害に至るおそれがあります。■ 風向きを考慮して、周辺の他の作物や畜舎、養魚池、水源地、河川、湖沼、住宅、通行人に飛散させないように散布してください。 薬剤の飛散により、薬害に至るおそれがあります。■ 風上から風下に向かって作業してください。 風下から作業すると作業者が薬剤を浴びて、薬害に至るおそれがあります。 |

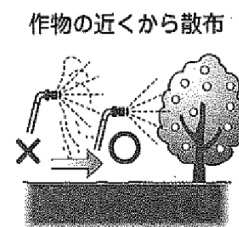
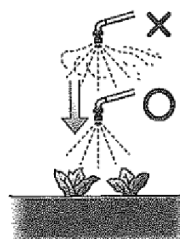
|  注意 | |
|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 噴流の中に手足を入れないでください。 高圧水に触れるとけがに至るおそれがあります。■ 本製品を倒したり、ぶつけたりしないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。■ ホースを継いで使用しないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。 |
|  | <ul style="list-style-type: none">■ 不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。 整備不良のまま作業を続けると薬害やけが、本製品の損傷に至るおそれがあります。■ タンクの残量に注意し、ノズルから霧が出なくなったら、ポンプを停止させてください。 ポンプを 30 秒以上空運転すると、故障に至るおそれがあります。 |

⚠ 注意

下記の項目を必ず守って、散布作業をしてください。

誤った散布作業を行うと薬剤がドリフトし、周辺作物や周辺住民などが薬害に至るおそれがあります。

- 風の弱い時に散布してください。
- 散布の位置や方向に注意してください。
- 適正なノズルを使い、適正な圧力で散布してください。
- 適正な量を散布してください。
- 園地の端部での散布作業は特に注意してください。
- 散布しようとする作物以外に、農薬がドリフトしないように細心の注意を払って散布してください。



お願い

- 作業中は異常音、液漏れなどに注意し、もし異常があった場合は運転を中止し、対処してください。

お知らせ

- 一時間以上連続運転をすると、空気室内の空気がなくなり、ホースが激しく振れることがあります。そのときは、カムハンドルを「始動」の位置にし、吸水ストレーナを空中に出して、10秒程度空気を吸わせてください。その後、吸水を確認してから作業を再開してください。

- ① 17ページの「(3)始動」を参照し、本製品を始動します。
- ② ノズルを対象物へ向け、ノズルの二ギリを左方向に回し、噴霧作業を行ってください。

(2) 噴霧作業後

⚠ 警告

- 清掃作業は必ず本製品を停止してから行ってください。
ポンプが動いていると薬剤が出て、薬害に至るおそれがあります。
- 損傷箇所がある場合は、修理してから保管してください。
損傷箇所があると、事故に至るおそれがあります。
- 作業が終わったら、全身をよく洗ってください。目をきれいな水で洗い、うがいをしてください。
身体に薬剤が付着していると、薬害に至るおそれがあります。
- 作業後は使用した保護具を十分に清掃してください。
保護具に薬剤が付いていると、次の作業時に薬害に至るおそれがあります。
- 作業に使用した作業衣は、他の洗濯物に薬剤が付かないよう分けて洗濯してください。
一緒に洗濯してしまうと、薬剤がほかの洗濯物に付き、薬害に至るおそれがあります。
- 本製品の内部に付着した薬剤は洗い流してください。
薬剤が残った状態や付着した状態で保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって薬害に至るおそれがあります。また、ポンプ、ホース、ノズルが損傷に至るおそれがあります。



⚠ 注意

- 散布作業終了後は、ポンプの内部をきれいな水で必ず洗浄してください。
ポンプ内部に薬剤が残っていると、故障に至るおそれがあります。
- 付着した薬剤はきれいに取り去ってください。
薬剤が付着していると、サビの発生や故障に至るおそれがあります。



⚠ 危険



- **本製品は防水構造ではありません。モータとポンプに水をかけないでください。**
感電やショートにより事故や故障に至ります。
汚れた場合は布などで拭き取ってください。

1) 洗浄

- ① タンクに清水を入れて運転、ノズルより噴霧し、各ホース、ノズル、ポンプ内の洗浄をします。
※ **17 ページの「(3) 始動」**を参照。
- ② ノズルから薬液が噴霧しなくなっても、内部洗浄の為、清水噴霧を 2～3 分続けてください。
- ③ 運転を停止します。
※ **18 ページの「(4) 停止」**を参照。

⚠ 注意



- **清掃後は本製品やホースの内部に水分を残さないように、水抜きを必ず行ってください。**
凍結によるポンプの故障、湿気によるモータの故障に至るおそれがあります。
- **本製品は室内で保管してください。**
凍結によりポンプが故障に至るおそれがあります。



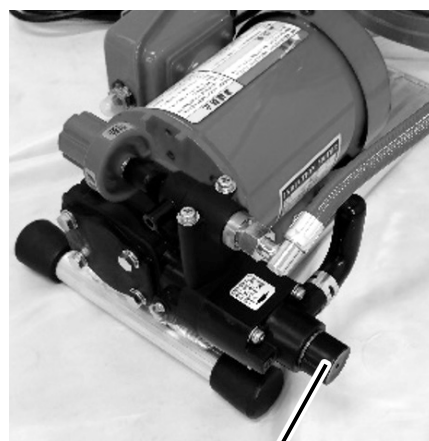
- **水抜き運転は 30 秒以上行わないでください。**
ポンプが空運転になり、故障に至るおそれがあります。

2) 水抜き

- ① タンク内から吸水ストレーナを引き上げます。
- ② 水抜き運転を行います。ノズル、各ホースから水が出なくなるまで運転してください。
※ **17 ページの「(3) 始動」**を参照。
- ③ 噴霧しなくなったら、直ちに運転を停止します。
※ **18 ページの「(4) 停止」**を参照。

3) 取り外し・格納

- ① ノズル、吸水ホース、余水ホースを外し、水を取除きます。
- ② 吸水弁の固着を防止するため、固着防止キャップを手で軽くキャップが止まるまで締め付けてください。
- ③ 接続部にゴミや砂が入らない様に注意して格納してください。



ベン固着防止キャップ

4) 作業終了後




- ① 薬剤を保管庫に戻し、鍵をかけて保管してください。また、農薬使用日誌をつけてください。
- ② 保護具や使用した容器を洗浄してください。
- ③ 衣類を脱ぎ、全身を洗ってください。

7. 点検・整備

お願い

- 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- 安全にご使用いただくために年に1回、ご購入の販売店にて点検を行ってください。
- 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってから使用してください。
- 本製品を運転して行う点検整備は、必ずご購入の販売店に依頼してください。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。

警告

| | |
|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> ■ 本製品を運転しないとできない点検、調整、修理は絶対に行わないでください。 機械に巻き込まれ、事故に至るおそれがあります。ご購入の販売店に依頼してください。 |
|  | <ul style="list-style-type: none"> ■ 点検・準備・整備はモータを停止し、冷えていることを確認し、電源プラグをコンセントから抜いて、水平で明るい場所で行ってください。 守らないと感電事故や火災に至ります。また、本製品が破損するおそれもあります。 |
|  | <ul style="list-style-type: none"> ■ 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。 正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。 ■ 点検、整備などで外したカバーは、全て正しく取り付けてください。 正しく取り付いていないと、巻き込まれたりして事故に至るおそれがあります。 |

(1) 定期点検

下記の使用時間を目安に定期的に点検を実施してください。

お願い

- ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

| 点検項目 | 点検のタイミング | 参照タイトル |
|---------------------------|----------|----------------------|
| ストレーナの清掃・点検 | 毎給水時 | 25 ページの「4) ストレーナの清掃」 |
| ホースの傷や割れの点検 | (毎日)8 時間 | 25 ページの「3) ホースの点検」 |
| 水漏れの点検 | (毎日)8 時間 | 19 ページの「(1) 噴霧確認」 |
| ノズルの詰まり・摩耗の点検 | (毎日)8 時間 | |
| 電源コード(被覆の損傷・劣化・折れ・曲がり)の点検 | (毎日)8 時間 | |
| 各部の清掃および締め付け点検 | (毎日)8 時間 | |
| 調圧弁の点検 | ※ 100 時間 | |

※印はご購入の販売店に依頼してください。

■ 消耗部品リスト

| 使用部位 | 名称 | 部品番号 | 規格 |
|-------|--------------------|--------|---------------|
| 吸水ホース | ゴムマルパッキン | 103685 | 12X18.5XT1.5 |
| 噴霧ホース | フナムホースマトメ | 548988 | 6X20 (※ 1)を含む |
| | ゴウセイジュシマルパッキン(※ 1) | 549091 | 11X17XT2 |
| | ゴウセイジュシマルパッキン(※ 1) | 549095 | 7X11XT1.5 |
| | ヨリモドシカナグ | 814042 | G1/4 |
| 中間ホース | ホースマトメ | 834447 | 7.5X300L |
| ノズル | ノズルクミタテ | 835602 | |

■ 消耗部品リスト

| 使用部位 | 名称 | 部品番号 | 規格 |
|------|-------------|--------|-------------|
| ポンプ | Oリング | 118465 | 4.8X2.4 |
| | キュウスイベンストッパ | 027500 | |
| | キュウスイベンカラー | 027003 | 6X8.5X9.6L |
| | ピストンパッキンマトメ | 124644 | 23 |
| | キュウスイベン | 124277 | 6.1X20XT2.8 |
| | シールパッキン | 112252 | |
| | Oリング | 013977 | S26 |
| | シリンダパイプ | 118030 | |
| | Oリング | 018393 | P25 |
| | アッシュクコイルバネ | 118031 | |
| | ハキダシベン | 022842 | |
| | ベンザ | 124284 | |
| | Oリング | 015862 | P21 |
| | Oリング | 022056 | |
| | Oリング | 014759 | P6 |
| | アッシュクコイルバネ | 118032 | |
| | ベン | 124999 | |
| | ベンザ | 124290 | |
| | Oリング | 011343 | P10A |
| | Oリング | 011346 | P14 |
| Oリング | 014175 | P9 | |

(2) 整備

1) ポンプの点検

ポンプからの水漏れ、ヒビ、割れなどの損傷があったら対象部品を交換してください。

2) モータの点検

電源ケーブルの被膜に損傷があったら交換してください。

3) ホースの点検

ホースに割れ、傷などが点検し、損傷があったら交換してください。

4) ストレーナの清掃

 注意



- ストレーナは作業前に毎回清掃してください。
詰まると水量、圧力が低下するおそれがあります。

ストレーナ表面のゴミを清掃し、清水で洗い流してください。

8. 長期保管

- 本製品を長期間(1 カ月以上) 保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、**24 ページの「7. 点検・整備」**を行ってから保管してください。なお、損傷箇所がある場合は、全て当社指定の純正部品を使用して、必ず修理してから保管してください。

注意



- **本製品やホースの内部に水分を残さないように、水抜きを必ず行ってください。**
凍結や湿気による故障に至るおそれがあります。
- **本製品は室内で保管してください。**
凍結により故障に至るおそれがあります。また、紫外線により部品が劣化するおそれがあります。
- **シート等かける場合は本製品が乾いてから行ってください。**
濡れたままシート等かけると腐食の原因となります。

お願い

- 保管は湿気の少ない場所でチリやゴミが付着しないようにしてください。
- 取り外した付属品や小さな部品をなくさないよう、大切に保管してください。

■ 格納について

- ① ポンプ、ホース内の水を確実に抜いてください。(23 ページの「2) 水抜き」を参照してください。)
- ② ノズル、ホースを取り外し、水を取除きます。
- ③ 固着防止キャップを取付けます。(23 ページの「3) 取り外し・格納」を参照してください。)
- ④ 本製品やホース等の外面をきれいにし、よく乾かします。
- ⑤ 本製品を箱などに入れ、直射日光の当たらない湿気の少ない風通しのよい場所に保管してください。

9. 故障と対策

☆印については、ご購入の販売店に調整・修理を依頼してください。

(1) 吸水しないとき

| 故障内容 | 故障原因 | 対策 | |
|------------------------|--------------------|--|---|
| モータが動かない (うなり音がしない) | プラグの差込み不完全 | 接続部の点検・プラグ、又はコンセントの確認 | |
| | 漏電遮断器作動 | 作動原因を取り除き、漏電遮断器を復帰させる | |
| | 断線 | 交換 | ☆ |
| | モータのブレーカ作動 | 作動原因を取り除き、ブレーカ復帰ボタンを押下する ※ボタンの位置については7 ページを参照 | |
| | モータのサーマルプロテクタ作動 | 電源スイッチを「OFF」にして、時間をおき、モータを十分冷やしてから、再度始動する | |
| モータは動く (うなり音がきこえる) | 吸水ホース接続緩み | 修正 | |
| | 吸水ホース、ストレーナの詰まり | 掃除、又は交換 | |
| | タンクに水がない | 水を入れる | |
| | 吸水ストレーナが水中にない | ストレーナを水中に沈める | |
| | カムハンドルが圧力をかけたままの状態 | カムハンドルを始動位置にする | |
| | 吸水弁の固着 | 弁の固着を解消する ※ 18 ページの「■ 吸水・噴霧しないとき」を参照 | |
| | ポンプ内部品の摩耗、キズ | 交換 | ☆ |
| | ポンプ内に異物 | 分解清掃 | ☆ |

(2) 圧力が上がらないとき

| 故障内容 | 故障原因 | 対策 | |
|-------------------|-------------------|---|---|
| 吸水するが 圧力が上がらない | 電圧不足(延長コードを使用の場合) | 延長コードを短くする ※延長コードの選定は16 ページを参照し行ってください。規格以外の延長コードを使用すると、発火する恐れがあります。 | |
| | ノズル穴の摩耗 | 交換 | |
| | 純正以外のノズルを使用している | 純正ノズルを使用する | |
| | 調圧ハンドル内部品の摩耗 | 交換 | ☆ |
| | ポンプ内部品の摩耗、キズ | 交換 | ☆ |
| | ポンプ内に異物 | 分解清掃 | ☆ |

(3) その他の異常のとき

| 故障内容 | 故障原因 | 対策 | |
|-------------|----------------|---------|---|
| 本体、配管からの水漏れ | 本体(ポンプ部)からの水漏れ | 修理または交換 | ☆ |
| | 配管からの水漏れ | 修正 | |

お願い

- 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店にご相談ください。

10. 転売・譲渡・廃棄

転売・譲渡

- 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 転売先や譲受者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- 保証書も同時に譲渡してください(保証期間内の場合)。

廃棄

- お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。

11. 主要諸元

| 型 | 式 | 名 | GS350MR |
|-------------------------------|-----------------------------|---------|------------------------------|
| 本 体 | 寸 法 | 全 長(mm) | 463 |
| | | 全 幅(mm) | 334 |
| | | 全 高(mm) | 389 |
| | 乾 燥 質 量(kg) | | 12.4 |
| ポ ン プ | 型 式 | | 差動ユニフロー式 |
| | 締切圧力(MPa) | | 3.5 |
| | 噴霧圧力(MPa) | | 2.0 |
| | 吸水量(L/min) | | 2.9/3.5(50/60Hz) |
| | 回転速度(min ⁻¹) | | 1400/1700(50/60Hz) |
| モ ー タ | 調 圧 機 構 | | ダイヤル調圧式 |
| タ | 型 式 | | コンデンサ運転形単相モータ |
| | 極 数 | | 4POLES |
| | 出力(W) | | 200 |
| | 電 源(V) | | 100 |
| | 回 転 速 度(min ⁻¹) | | 1400/1700(50/60Hz) |
| 電 源 コ ー ド(mm ² ×m) | | | 4.3/3.3(50/60Hz) |
| ノ ズ ル | ノズルチップ径 | | Φ 1.0 |
| | 吐出量(L/min) | | 2.1(直噴状態)、1.6(拡散状態)※ 2.0MPa時 |

- 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

サービスと保証について

■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。

本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

■ アフターサービスについて

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- 型式名
- 製造番号
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

○ 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、ご購入の販売店に点検整備を依頼してください。このときの整備は有料となります。



製造番号ラベル

■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！
未永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお勧めします。

詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。



本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

丸山サポートセンターホームページ

<http://www.maruyama.co.jp/support/>



受付時間 9:00 ~ 17:00(土、日、祝日を除く)

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、
ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。



株式会社丸山製作所

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 〒101-0047

P/N. 835636-02 2023.10